

「この世に生まれ、生きて、生かされて…
あと一歩前へ踏み出したあなたへ」を聴いて

7月22日(日)13時30分。酷暑の中、きびドームにて、約2000人の皆さまにお集まりいただき、家田莊子氏の講演会を催しました。

家田氏は、昭和世代の皆さまにはおなじみの映画「極道の妻たち」の原作者であります。また、高野山真言宗の僧侶でもあります。

「極道の妻たち」と言えば、岩下志麻さんやかたせ梨乃さんの、諸肌を脱いで、威勢のいいたんかを切るシーン、を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。男性であれば高倉健さん主演の「日本侠客伝シリーズ」を思い浮かべると、同様の気持ちになるでしょう。私も映画を見終わった後、肩を怒らせて帰った覚えがあります。

さて、今回の講演は「2泊3日のつなぎお遍路」「エイズと向き合う」「慈悲の心、挨拶」の3つで構成されています。

「2泊3日のつなぎお遍路」

四国八十八箇所を歩いてお遍路するには相当な時間がかかります。忙しい人や仕事を持っている人が、2泊3日でのお遍路を繰り返す、つな

いで満願するという内容です。

お遍路をしている中でいろいろな出会いや体験があり、考え方の変化があり、人々の助けを感じ、それらを生かし、生活の中に取り入れていく。お遍路は自分の悪いところを直す機会、自分を見つめる機会を与えてくれ、違う自分を発見できる場であるとも教えてくれました。

私が気に入った、感銘を受けた言葉を並べたいと思います。

- 1.他人の体の痛みは分からない。自分で対処するしかない。健康診断で悪いところを早期に見出し、治療する。
- 2.たくさんの人々に助けられ、人間は生きていく。人間はひとりでは生きていけない。
- 3.自然を大切にし、壊してはならない。
- 4.性別・肩書きは関係ない。謙虚な心・態度が大事。
- 5.役目を頂く。人を喜ばせる。できることをして助け合って。

「エイズと向き合う」

差別と偏見の中で、エイズ患者とどのように向き合い、対処するのかをお話しくれました。家田氏は、

エイズ患者と生活を共にした体験を記した「私を抱いてそしてキスして」という本も出されています。

エイズへの差別と偏見は、エイズをよく知ることでも無くすることができません。何が自分にできるのか、させてもらえるのかを考え、普通にそばに居てあげること。そして普通に接し、愛し、理解し、受け入れ、信じることが大事だと教えられました。家田氏が身を持って実践された行動に、深く感動しました。

「慈悲の心、挨拶」

挨拶ができる人が多くいる町、地域は活性化します。挨拶をすることで、優しい態度で接することができ、会話が弾むとのことでした。有田川町もそうありたいものです。

人権機関有田川委員 片畑俊雄

お知らせ

人権特設相談所

9月20日(木)、人権特設相談所を開催します。相談は無料で、秘密は厳守されます。

●場所／きび保健福祉センター

●時間／13時～16時

人権機関有田川委員の
退任と就任

有田川町区長会連合会の青木宗楠さん(下津野)が人権機関有田川委員を退任されました。

新たに有田川町区長会連合会から有木茂生さん(歓喜寺)が人権機関有田川委員に就任されました。

ドリアン助川さん人権講演会

●日時／9月22日(土) 13時30分(13時開場)

●場所／金屋文化保健センター

※入場無料。ただし入場には整理券が必要です。

※整理券は8月30日(木)から、地域交流センター(ALEC)・金屋図書館・清水図書室・きびドーム・金屋庁舎社会教育課・清水行政局住民福祉室・各出張所で配布します。



■人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課

TEL 521-2111
FAX 321-4827